令和 2 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：20-02-13）

研究課題：歯周病と糖尿病性腎症の関連性についての疫学パイロットスタディ

研究者名：新城尊徳、西村英紀

所属：九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野

【背景】わが国では約 1330 万人いるとされる慢性腎臓病患者のうち、約 3~4 割が糖尿病を原疾患とする糖尿病性腎症(DN)患者と言われている。DN は 10~15 年かけて緩徐に進行し、自覚症状に乏しいため腎不全による人口世紀の原因の第一位となっている。一方で、糖尿病の有無に関わらず重度歯周炎は将来的な腎機能低下と有意に相関することが示されている。しかし、糖尿病患者における腎機能低下すなわち DN 病態と歯周病の関連に焦点を当てて、詳細に検討をした疫学的研究はこれまで行われていない。

【目的】そこで本研究では、DN 患者における各種歯周病関連パラメータと腎機能関連パラメータとの相関について疫学的検討を行い、どのような歯周病関連パラメータが DN 病態を創刊するかを明らかにすることを目的とする。

【方法】九州大学病院歯周病科および糖尿病内科を受診している患者を募り、歯周精密検査および血液・尿検査のデータを抽出し、各種パラメータにおける相関関係を統計学的に解析した。

【結果】これまで 15 名の DN 患者に本研究参加の同意を得て、1 名が除外基準に該当していたため 14 名について解析を行った。推算糸球体ろ過量(eGFR)は年齢、UACR、喪失歯数との間に有意な負の相関を認め、残存歯数と有意な正の相関を認めた。一方、尿アルブミン-クレアチニン比(UACR)は、年齢との相関は見られず、残存歯数と有意な負の相関、喪失歯数と有意な正の相関を示し、UACR は歯周ポケット深さが 4mm 以上である部位の割合と正の相関にある傾向がわかった。eGFR 値 60 を基準に 2 群に分け、各種パラメータを比較したところ、eGFR が低値の群では年齢と喪失歯数が有意に高く、残存歯数は有意に低いことが分かった。

【結論】本研究より、糖尿病患者では歯周炎の進行あるいは歯牙の喪失と相関して腎機能の悪化が見られることが分かった。COVID-19 による影響によって、被検者のリクルートが大幅に遅延したため、今後参加者を増やして再解析し、血液データとの相関関係についての検討を行っていく予定としている。